

これからの公共交通

バスの運行形態が変わります



皆さんはバスに乗られたことがありますか？

毎日通勤や通学で利用されている方もあれば、まったく乗れない方もあるのではないのでしょうか？

現在、伯耆町では路線バスや循環バス、役場所有のマイクロバスなど様々なバスが運行されています。

本町のような地域での交通手段は、鉄道やタクシーだけでは不便であり、バスは利用者にとっては重要な交通手段の一つとなっています。しかし、実際はあまり利用されていないのが現状です。

【見直しのきっかけ】

公共交通を見直すことになった要因は数点ありますが、主に次の二点です。

一点目は、一世帯あたりの自家用車所有台数が増え、バスを

利用する方が減少しました。車を運転できない方も家族と一緒に出かけられているようです。

二点目には、お金の問題です。路線バスは人が乗ってなくても運行しなければなりません。路線バスや循環バスを維持するために年間約二千八百万円を町が負担しています。

また、バスの運行に県の補助金等も交付されてきましたが、財政難のため県補助金も削減されることとなり、伯耆町で維持することが困難になってきました。しかしながら、バスを通勤や通学、買い物など生活に密着した重要な交通手段として利用されている方もおられ、単純にバスをなくすことはできません。

そこで、バスをより便利な公共交通手段となるように、また運行コスト（経費）を削減するため、見直しを進めてきました。

【調査】

平成十七年度に、バスの利用者がどの程度おられるか、また、どういった目的でバスを利用されているのかアンケート調査を進めてまいりました。調査の結果、バスの利用は、時間帯によって利用者が変わることや、同じ目的で利用されていることがわかりました。問題点として「バス停が遠い」「時間帯が合っていない」など様々な意見も出されました。

【デマンド型運行とは】

検討されているデマンド型の運行と、現在運行中の路線型運行との違いを説明します。

大きな違いとして、デマンド型運行は利用者がいないと運行されない点です。デマンドバスを利用するには事前に予約することが必要です。また、予約された人を輸送するため決められ

路線型運行とデマンド型運行の違い

路線型運行	仕組み	現況
	決められた路線、時刻表に基づき運行。利用の有無に関わらず、すべてのバス停を通過。運行本数を固定。	決められた路線、ダイヤすべて走らなければならない。利用のないバス停にも寄るため、目的地へ着くのに時間がかかる。利用のないバス停に寄るため、ムダな走行に対する利用者の不満が募る。時刻表に基づいた運行のため、運行本数が限られる。
		電話で利用したい時刻、乗降バス停を予約。予約に基づき路線決定（A～B～目的地）。運転手へ運行経路を連絡。予約がなければ運行しない。

た路線を走行しなくてもよいための目的地へ早く着くことが予想さ

れています。詳しくは次の表をご覧ください。

【会議】

伯耆町全体の公共交通を考えていくため、平成十八年度に「交通対策会議」を設置しました。これは、今後の伯耆町がどういったバス運行をしていけばいいのか、また、どうすれば運行コスト（経費）が削減できるかを検討する会議で、国・県の関係機関や交通事業者である日の丸バス、利用者を代表しての住民数名を委員として協議を進めてまいりました。



地域交通会議の様子